

(特別支援教育)

情緒の安定と学ぶ力の育成を目指す ～合理的配慮と支援～

大阪市立弘済小学校 清水貴久 三木晶子 金野仁

1. 研究主題設定の理由

本校の児童は厳しい環境の中で生活してきた経験をもっている。そのため、自分を守るために関係を閉ざす、攻撃的になる、過度に甘える等、人との関係や距離の取り方が極端になることがある。また、一対一の時と集団の時の表情の違いの差も大きい。情緒の不安定さは、これまでの生活環境だけでなく、施設に入ってから人間関係や自分の居場所への不安、それと本人の持っている特性が重なり合って起こってくる。そのような実態から、本校の学ぶ力を育成するにあたって、まずは児童の情緒の安定を図ることが重要であると考えます。

そこで、本年度は、研究主題を『情緒の安定と学ぶ力を育てる教育活動—学び直しの場として—』とした。学校に数年間登校することができなかった児童や、6年生になって初めて入学することになった児童。そのような状況に置かれていたため、集団での学習は刺激を過度に取ってしまう。そこで、集団学習と個別学習を組み合わせたり、達成感や成功体験を積み重ねられるような個に応じた教材の工夫をしたりする。学習面以外にも、本校の特色である豊かな自然を利用した自然体験学習での縦割り活動・小学校全体での活動等、学年の枠を外した取り組みを行っていく。児童の学びの基盤となる情緒の安定を図るために、どのような支援・合理的配慮が必要なのかについて研究を進めていく。

2. 研究の内容

(1) 情緒の安定のための工夫

○本校における合理的配慮の観点

(教育内容) 学習上の困難を改善・克服するための配慮

学習内容の変更・調整

(教育方法) 情報・コミュニケーション及び教材の配慮

学習機会や体験の配慮

心理面・健康面の配慮

(支援体制) 専門性のある指導体制の整備

(施設整備) 発達、障がいの状態及び特性等に応じた指導ができる施設整備の配慮

① 環境の工夫

集団での学習が難しかったり、トラブル等で不安定な状態になってしまったりする児童が多いため、人や場所等の環境の工夫が必要となってくる。気持ちが落ち着かない場合は、場所や人を替えて、まずは心を安定させることが必要であると考えます。そこで、教室環境等の環境の工夫を行ってきた。

自然環境の利用

弘済の豊かな自然を生かした栽培・収穫・調理活動を豊富に行っている。どの活動の際にも友だちと協力し、達成感を味わうことができている。また、昆虫採集や草花摘みなど、児童一人ひとりが自然と関わり合う姿も見られ、良い表情を浮かべている。

知育玩具	子どもたちの集中力、想像力、空間把握・構成能力等を向上させる目的で各教室でも知育玩具を数点配布している。ブロック玩具で「教室」を作り、そこにクラスの友だち全員を入れることで安心感を得るなど、情緒安定につながるような使用をしている児童も見られる。
図書室の改築・整備	本校の児童は読書が大好きである。読書をすることで、気持ちを安定させる児童が多くみられる。そこで、図書室をより利用しやすいよう、改築工事や蔵書の整理を行なってきた。また、週一回であった図書室開放を、雨の日の昼休みにも行うことで、より本を身近に感じられるようにしてきた。

② 各学年・個に応じた工夫

学習内容	遊び要素や生活に繋げる 個の実態に合わせる	テスト・評価	同じ問題を事前に行う (成功体験) ミニテストを繰り返す 個に応じた問題にする
教材・教具	視聴覚教材 教具と一緒に作る	仲間作り・遊び	勝ち負けのないゲーム 調理・工作等を通じて
指導方法・発問	劇化・ロールプレイング パターン化	学習時間	45分を分割して行う フリータイムを入れる
板書・ノート 掲示物	既習内容を教室に掲示 板書の文字数をノート と合わせる	その他	自然とのかかわり 子ども対応の資料を机に貼 っておく

3. 実践事例

- (1) 1・2年生(複式学級)の実践
生活科『おもちゃランドをつくろう!』
- (2) 6年生の実践
社会科『今に伝わる室町文化』

4. 研究の成果と今後の課題

- (1) 研究の成果
 - 場面や児童の状況に合わせて、一斉学習・個別学習を行うことで、落ち着いて学習に取り組むことができる児童が増えてきた。
 - 集団で過ごす際、児童同士の優しい声掛けが増えてきた。また、トラブルになりそうな際には距離を取る姿も見られるようになった。
 - 自然体験学習を充実させたことにより、異学年間での交流も増え、協力する姿が見られるようになってきた。
- (2) 今後の課題
 - 少人数かつ転出入が多いという本校の特徴から、転出入があった際に一気に学級集団が不安定になってしまう。一度に複数名が不安定になった際の対応は学校だけでは難しく、園職員とより連携していく必要がある。
 - 落ち着いて学習に取り組むことができる児童が増えてきたため、より前向きに学習できるよう教材教具の工夫等を行い、児童の学ぶ力の育成を目指す。